

「SOGAKA！異文化 い〜文化 ～国際交流で顔の見える人間関係をつくろう～」

大田市 東部公民館

1 東部ブロック地区の概要

大田市立東部公民館は、久手町、波根町、朝山町、富山町の4つの町からなる広い地域のコミュニティーブロックの公民館である。それぞれの町にある4つのまちづくりセンターと連携・協力しながら事業に取り組んでいる。

ブロック内の人口は約5200人（*令和2年1月末現在）で、朝波小学校、久手小学校、第二中学校がある。第二中学校は東部ブロックにある2つの小学校と、西部ブロックにある3つの小学校の子どもたちが通っている。最近では外国人の親を持つ子どもたちも増えてきた。

2 事業の趣旨

ここ数年、大田市では在住外国人が増えてきている。地域内でも出会うことも多い。こうした中、平成30年の島根県西部地震の際、避難場所で言葉が通じないといった問題が起こった。このようなことが少しでも改善できるように、大田市民と外国人の交流会をはじめとした学びの場を設定し、お互いが理解しあう環境を整えることを目的とし、事業を実施することにした。

3 具体的な取組内容

大田市在住の外国人との異文化交流を行う前に、まずは外国人の文化や現状などについて学ぶ場を設定し、次の3回シリーズで事業を実施した。

(1) 人権を考える集い「外国人の人権について」【10月19日】

テーマ「多文化共生社会の実現に向けて」

国際交流をするにあたって、在住外国人との共生について考える人権研修会を開催

した。ブラジル人の大田市国際交流員からブラジルの文化、サンパウロの日本人学校での勤務経験を持つ大田市の派遣社会教育主事から自身が体験したブラジル文化を話していただくとともに、インタビュー形式でも話をしていただいた。その後、研修参加者のみなさんに4～5人でグループワークを行い、様々な意見や感想を発表した。最後に、大田市在住外国人共生市民の会の方から全体へのアドバイスをいただいた。



↑ (研修会での様子)



← (グループワークの様子)

(2) ブラジル料理を一緒に作って、おいしく、楽しく食べよう！【11月30日】



(一緒に調理中)



(出来上がったブラジル料理)



(参加者の集合写真)

1回目の交流会はブラジル人と一緒にブラジル料理を作り、会食を行った。先生に教えてもらうのではなく、それぞれのグループのブラジル人がアドバイスをしながら一緒に作業を進めた。メニューは「ひよこ豆のスープ」と餃子の皮を使った「牛肉やチーズのパステル」。それぞれのグループで話が弾み、楽しそうな笑い声が聞こえた。試食の時間も会話を楽しんだ。

(3) 習字で楽しく交流しよう【2月1日】



(個人で習字の練習中) ↑



(参加者全員で一文字ずつ書いて作品をつくる行程中) →



(『同じ空の下にくらすなかま』作品を囲んで)

2回目の交流会は、外国人が興味を持っている習字での交流会を行った。講師には地域で習字教室を行っている二人を迎え普段習字教室に来る生徒たちと同じように指導していただいた。まず、個人で好きな漢字を一文字書き、色紙に清書した。その後、大きな半紙にひとり一文字ずつ書いて一つの作品を仕上げた。

写真のように、素敵な作品に仕上がり、現在は東部公民館の階段の踊り場に飾って紹介している。

4 評価と成果

楽しい交流会だけでなく、学びの場を企画したのは良かった。いろいろな背景を知りながら交流を持つことで、それぞれが少しずつ成長できると感じた。

- (1) ブラジル人の生活文化と日本人の生活文化との違いを知ることができた。今、自分たちができることをそれぞれの参加者が考え、意見を伝え、気付く機会になった。最後のアドバイスで、「自分の言葉で、『せわなかな』『どがなかな』と身構えず話しかけるとそのうち会話が始まる。」と話してくださった。そのような地域になることを期待している。
- (2) 一緒に何かを作ったり作業をしたりすることで、人と人の距離が近くなることがよく分かった。出雲からポルトガル語が堪能な知人の若者が参加し、ネットワークの広がりにつながった。
- (3) 日本の筆の文化を知ってもらう良い機会となった。全員で一つの作品を書き上げ、素敵な作品ができた。

5 今後の課題と見通し

(1) 課題

- ア 参加者が交流会だけでなく、学びの場にも多く参加するしかけづくり。
- イ 個人作業でなく、一緒に活動できる交流事業の計画。

(2) 見通し

- ア 東部ブロック内の各町での学び、交流の場をつくる。
- イ 東部ブロック内在住外国人の情報を得る。
- ウ 外国人同士の交流の場を設け、地域へ発信し、地域全体で交流をつくる。

(文責：主事 福島真夕子)